

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和6年度前期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

杉本 光公

信州大学全学教育センター データサイエンス教育部門長

高野 嘉寿彦

1. 点検の概要

令和6年9月に当センターのデータサイエンス教育部門において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要な科目である「データサイエンスリテラシー（以下、本科目）」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当センターの平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- ・ 今年度から、本科目は「地域活性化人材育成事業～SPARC～：『しあわせ信州』を創造する地域活性化高度人材育成プログラム（ShinXia）」の科目としても開講している。
- ・ 信州大学の1年生について、前期前半履修者の約91%（＝832/913）が単位を修得した。前期後半（再履修）も含めると、前期履修者の約97%（＝887/916）が単位を修得した。
- ・ 単位を修得できなかった主な原因は、昨年度と同じく、小テストの未受験や記述課題の未提出であった。
- ・ 学生に対するアンケート結果から、次の3点が明らかになった。
 - 本科目の良い点については、昨年度と同様に、「情報社会を知ること」や「知識獲得」に関する意見が比較的多かった。
 - 本科目の改善点についても、昨年度と同様に、「資料の多さ」や「小テストの難しさ」を指摘する意見が比較的多かった。また、「資料を見やすくすること」や「動画教材を増やすこと」に関する意見もあった。
 - 学習方法に関する後輩へのアドバイスについても、昨年度と同様に、「自分で理解する・調べる・考える」ことなど、主体的学習を促す意見が比較的多かった。
- ・ 「資料の多さ」に関する意見について、本科目では、科目全体で45時間の学習となるよう、授業1回あたり（おおむね1週間あたり）5時間程度の学習量になるよう教材を提供している。しかしながら、本学で実施している「学生による授業アンケート」の結果を確認したところ、「1週間あたりの授業外学習時間」として、8割以上の回答者が「2時間未満」を選択していることから、資料が多いとは言い切れないと判断した。

その後、平井准教授から、令和6年度後期に向けて、教材を再度整理するなどして「資料の見やすさ」を改善するという提案があり、部門員でそれを確認した。

2. 評価の概要

前期後半に開講した再履修生用科目での単位修得を含めると、昨年度より単位修得率が2ポイント程度上昇した。そのため、特に大きな問題点は見当たらなかった。前述の本科目の改善点に関する対応を行いつつ、引き続き、各期前半での単位修得率向上を目標として、今後も授業運営を行っていくことを確認した。

以上